

51. コンスタンティヌスとは誰ですか？

コンスタンティヌス一世もしくはコンスタンティヌス大帝として知られているフラウィウス・ヴァレリウス・アウレリウス・コンスタンティヌス（272－337）は西暦306年から337年の間、ローマ帝国の皇帝でした。彼は歴史上最初のキリスト教徒の皇帝として歴史に名を連ねています。

2014/02/04

彼の父コンスタンティウス・クロルスは、もともとギリシャの士官でしたが、305年に西方の皇帝に擁立されました（同じ年、東方ではガレリウスが皇帝に抜擢されています）。このコンスタンティウス・クロルスと、後に聖人になったそのヘレナとの間に、コンスタンティヌスは生まれました。コンスタンティウス・クロルスが306年にブリタニアで没すると、地元の軍隊はコンスタンティヌスを皇帝に擁立しました。当時は政治的に難しい状況下にありました。コンスタンティヌス帝は、イタリア・北アフリカを支配していた元皇帝マクシミアヌス及びその息子マクセンティウスと緊張関係にあったのです。コンスタンティヌスは310年にマクシミアヌスを打ち破り、そしてマクセンティウスを312年の10月28日、ミルウィウス橋の戦いで打ち破りました。伝説の語るところによると、コンスタンティヌスはこの戦闘に入る前に幻を見ました。異教

徒として礼拝していた太陽を見つめている時、そこに十字架が見えたというのです。そして、自軍の兵士たちの盾に、キリストを表わす組み合わせ文字（キリストのギリシャ語での名前の最初の2文字を重ねたモノグラム）を掲げるように命じました。コンスタンティヌスは異教徒の儀式をおこない続けたのですが、この勝利以来キリスト教徒に対して好意的になりました。東方皇帝のリキニウスと連名で信仰の自由を保障するいわゆる「ミラノ勅令」（次の質問を参照）を発布しました。その後両皇帝は対立し324年にコンスタンティヌスはリキニウスを打倒し帝国の唯一の皇帝になりました。

コンスタンティヌスは、行政、軍事、経済面で多くの改革を実施しましたが、特に際立っていたのは宗教政策面での措置で、まず最初に帝国のキリスト教化に向けられました。コンスタンティヌスは教会の統一を

維持するのに適した組織作りを推進しましたが、それは国家の統一を維持しその君主形態を合法化する方法としての行動でした。ただし、個人としての宗教的動機を排除することはできないでしょう。教会の行政面での措置と同時に、異端や分裂に対する方策も取りました。教会の統一を守るために、北アフリカのドナトゥス派によって引き起こされた分裂と戦い、またアリウス派により引き起こされた三位一体論争を解決するためにニケア公会議（質問；「ニケア公会議で何が起きましたか」を参照）を開催しました。330年にローマ帝国の首都をローマからビザンティウムに遷し、そこをコンスタンティノープルと命名します。この遷都は、キリスト教の中心となるべき首都の建設を望んだものでしたが、一方では、それまでの伝統から離れてしまう結果となりました。コンスタンティヌスには洗礼の機会はいくつもあったはずですが、実際に

洗礼を受けたのは死の直前でした。洗礼を司式したのは、アリウス派の司教・ニコメディアのエウセビウスでした。

コンスタンティヌスの統治には、彼が生きた時代に一般的であった欠点（たとえば、気まぐれで暴力的だといった性格など）があったことは否定でいませんが、他方、教会に自由を与え教会の一致に貢献したことも否定できません。一方、教会の一致を図るためにコンスタンティヌスが最終的に聖書に含まれる書物の数を決定したということは歴史的に定かではありません。聖書の正典の決定までは長い過程があり、コンスタンティヌスより後の時代に終ることになります。ただし、4つの福音書については、コンスタンティヌスよりずっと以前から、教会は正典として認めていました。福音書と名付けられた他の文書が異端として正典から排除されたのは、コンスタンティヌ

スの時代よりも数十年前のこと
だったのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメン
ト [https://opusdei.org/ja-jp/article/51-
konsutanteinusutohashui-desuka/](https://opusdei.org/ja-jp/article/51-konsutanteinusutohashui-desuka/)
(2026/04/03)